

祝!成人 新たな時代を担う若者たち ~ 平成最後の成人式~

全然実感はないけど、いち成人として頑張っていきたいです。4月から四万十町で保育士として働くので頑張っていきたいです。笑顔が良いと言われるので、笑顔を忘れず子ども達に好かれるような保育士になりたいです。(成人できたのは)女手ひとつで育ててくれたお母さんのおかげです。これからも迷惑をかけると思うけど、よろしくをお願いします。

きちんとした周りから頼られるような人になりたいです。(今日の日があるのは)お父さんとか、おばあちゃんとか、お母さんとかみんなのおかげです。今まで何十年も育ててくれてありがとうございます。頑張ります。

新成人の声

しっかり目標を立てて、その目標に進んでいけるような人になっていきたいです。成人したということで、1人でも生きていけるようにしたいです。

行動に責任を持てるような大人になりたいです。しっかり頑張りたいです。(目標は)いち早く仕事の内容に慣れて、しっかり任せられるようにしたいです。



ここで生まれ育って、ここを離れるひとにも、ここで生まれ育って、ここに留まるひとにも、ここにはないところ生まれ育って、ここに来たひとにも、この町の山も川も海も空も星も、すべてが誰かを等しく包んでいる。すべてが誰かを等しく見守っている。この町の山も川も海も空も星も、どこにも行かずに、いつまでも変わらず、どこにも行かずに、いつまでも変わらず、ここであなたを包み続ける、あなたを見守り続ける。そのことを忘れないでいれば、世界のどこで暮らしても、きっと大丈夫。どこでもいつまでもいつまでも、心にしあわせしまんとせいかつを。

地域の魅力や活性化案を中学生・高校生が発表

大正・十和地域連携型中高一貫教育～ふるさと学習発表会～

平成30年12月14日、ふるさと学習発表会にて、大正・十和地域の中学生・高校生が、自分達の地域の自然や文化について調べたり考えたりして、中学生・高校生の目線で地域の魅力や活性化案などについて発表しました。

大正中学校からはキノコを使った大正地域のアピールについて、インスタグラムを例にSNSの活用について提案されていました。また、四万十高校からは地元コンビニがないことを取り上げ、その必要性について考えたことを発表。県内の県立高校で周辺にコンビニが無いのは四万十高校だけで、そのことをどう思うのか大正・十和地域の中・高生を対象にアンケートを実施し、その結果を発表されていました。その中で、コンビニが無いことから見えてくる地域の良さもあるのでは?といった意見もあったと話し、商店街で店主との触れ合いによって生まれる交流など、不便だからこそ生まれる人と人との繋がりや地域の助け合い、人に頼らず自分でやる力をつけることができるなど、コンビニが無くていいことが、大正・十和地域の魅力の1つといえる...と結論付けられていました。

このように、中学生と高校生が一緒に学び合い、地域のことについて考える取り組みや、生徒たちの若い力と柔軟な発想・地域への熱い想いは、四万十町の大きなエネルギー源となりそうです。



平成から新たな時代へ

近年、目まぐるしく変わっていく社会において、この町にしかない魅力、この町でしか感じられないしあわせ、それぞれの“しあわせしまんとせいかつ”を見つけていくことが大切なのかもしれません。平成から新たな元号へと変わる節目の年。四万十町の将来、そして新たな時代を担っていく若者たちの今後ますますの活躍を期待したいですね。

来月号では、防災特集をお届けします!

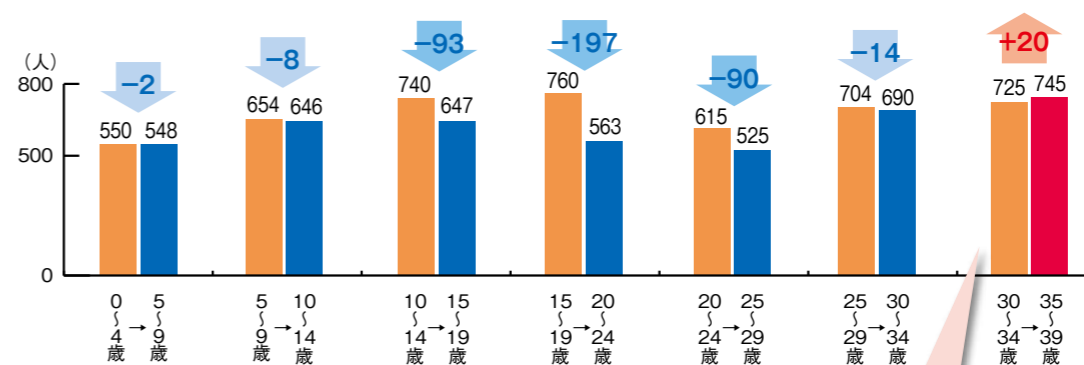


若い世代の人口推移

↑前年比増 ※住民基本台帳より
↓前年比減 単位:人

	0~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~34歳	35~39歳
平成25年	550	654	740	760	615	704	725	907
平成26年	541↓	635↓	737↓	757↓	592↓	701↓	704↓	923↑
平成27年	528↓	581↓	729↓	721↓	570↓	632↓	679↓	867↓
平成28年	502↓	588↑	680↓	703↓	576↑	581↓	701↑	802↓
平成29年	496↓	553↓	658↓	698↓	559↓	576↓	686↓	793↓
平成30年	501↑	548↓	646↓	647↓	563↑	525↓	690↑	745↓

5年間で見た人口移動(平成25年⇒平成30年)



15歳~29歳にかけて、町外へ出ていく若者が多かったことがわかります。これは、進学や就職の機会に町外へ出ていく傾向にあることが考えられます。

30代になると、町内へ入ってきた方が多くなっていることがわかります。これは、移住・定住施策による移住者の増加や、30代でのUターンが多いことが考えられます。

四万十町へのUターン・ターン、若者の定住を支援します!

若者の定住促進支援

(補助件数) H29年度:33件
H30年度:27件

40歳以下の若者が新たに住宅を新築又は購入する際に最大100万円の補助。⇒詳しくは、建設課 ☎22-3120

家族支え合い居住支援

(補助件数) H29年度:10件
H30年度:12件

新たに二世帯以上で住宅を新築・購入・改築する際に最大100万円の補助。⇒詳しくは、建設課 ☎22-3120

移住者賃貸住宅の家賃助成

(補助件数) H29年度:14件
H30年度:13件

移住者が民間賃貸住宅に居住する場合に、1月あたり15,000円を限度とし、最大12か月分を補助。

⇒詳しくは、にぎわい創出課 ☎22-3281

移住・定住支援については、昨年の広報9月号の特集でも詳しく紹介していますので、ぜひご覧ください。

関連する制度

町産材の利用促進

町産の木材と町内の工務店等を利用して住宅を建築する際に補助(限度額150万円) ⇒詳しくは... 建設課 ☎22-3120

出産祝金

第1子、第2子は5万円、第3子以降は30万円を支給。 ⇒詳しくは... 町民課 ☎22-3117

親元就農の応援

農家子弟を県外等からUターン就農させて、経営体の後継者として育成を行う認定農業者に対して農家子弟1人あたり120万円を補助。 ⇒詳しくは... 農林水産課 ☎22-3113

移住・定住のご相談窓口 ⇒ にぎわい創出課 ☎22-3281

特集

見て、知って、考える。四万十町の今